

**こんなことあったよ!** のしろ白神ネットワークの活動レポート

令和7年9月6日(土)

愛媛県宇和島市 遊子段畑夕涼み会 編

愛媛県宇和島市に国の重要文化的景観の選定を受けている「遊子水荷浦の段畑」があります。段畑で夕涼み会があるということで、木高研の渡辺先生と共いのしろまち灯りで展示している灯りを展示するため参加してきました。

参加するきっかけとなったのが、昨年開催された「第18回 のしろ市民フォーラム」で愛媛大学の羽鳥教授が講演のため来能され、愛媛県でも灯りのイベントを行っていると同様ことから、灯りでの交流をしようというのが始まりです。

9月6日の夕涼み会当日は、朝から晴天で昼頃には気温も35℃となり、東北から行った我々は暑さに参ってしまいましたが、遊子の方々は、そんな暑さにはお構いなく準備を黙々とされていました。その姿に後押しされ、我々も四国地方整備局の大洲河川国道事務所の方々や愛媛大学の学生と共に準備に取り掛かりました。

準備中には現地の方々がのしろの灯りに興味を持っていただき会話も弾みました。また、会場周辺ではキッチンカーや出店もあり、18時のスタートに合わせて徐々に人が集まり賑わいも出てきました。

18時に夕涼み会がスタートすると、主催者の挨拶や来賓の挨拶などが進み、その後現地の方々へ当ネットワークの紹介もさせていただきました。

夕涼み会は、遊子小学校児童によるステージイベントから始まり、フラダンス、三味線弾き語り、愛媛大学の学生による「あたりまえ体操」が行われ、最後に伊予神楽により締めくくられました。

終了時には、羽鳥教授や大洲河川国道事務所の方々の営業力により、持参した県北地域の観光パンフレット30部も全て無くなりました。また、現地の方々と東北や秋田県北地域について話をすることができ、当ネットワークの活動地域について少しでも知ってもらえたと思います。

12月には「のしろまち灯り」が開催される予定ですので、今度は四国の方々に、是非のしろの灯りを見に来てもらいたいと強く感じた1日でした。



猛暑の中での準備作業



遊子小学校児童によるステージイベント



段畑の灯りを背景にステージイベント



月と伊予神楽とミルクキーキャンドル

文：成田 和幸



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

昨年 12 月に開催したのしろ市民まちづくりフォーラムで、愛媛大学の羽鳥先生が南いよ風景かいどうで、地元の子も達があかりを灯している取り組みを紹介されました。モノだけでなく地域資源、次世代のヒトをもつなぎながら進める地域密着型の取り組みが、当ネットワーク(以下、NW)で始めた「のしろまち灯り」に通ずるところがあり、ささやかでも何か交流ができれば良いなと思っていました。

7 月 2 日の先生とのオンライン打ち合わせを皮切りに、以降、とんとん拍子に話が進み、この日、大洲河川国道事務所のみな様の全面ご協力のもと、遊子段畑の夕涼み会に当地の灯りを並べさせていただきました。

ここの灯りは竹製です。15 時から準備が始まり、南米・インカの遺跡を連想させる大きく急峻な石積みのお畑に、実行委員会やボランティアの方々が竹灯籠を置いていきます。道路脇には遊子小学校の児童のメッセージ入りのものが置かれていきます。NW の灯りには、イベントステージの周りを設置場所として用意下さっていました。

成田さんにも私にも夕涼みにはなりませんでしたが、多くの方が東北や秋田、能代、スギの灯りに関心を持って下さり、行って良かったと思える 1 日となりました。

お世話になったみな様、お立ち寄り下さったみな様、有難うございました。これをご縁にどうか宜しくお願いいたします。

文： 渡辺 千明



設置や点灯していると NW の灯りに興味をもたれた地元の方から声をかけられます(上)。大洲河川国道事務所の広報ラジオの取材があり、後日放送されました(下)。

通りには会場に向かってキッチンカーやテントが並びます(上)。日が暮れると MW のテントの灯りが人目をひくようになり、多くの方にお立ち寄りいただきました(下)。



松山空港では市花の椿とみきゃんがお迎え(上)。巨大災害への警告、愛媛新聞社屋の垂れ幕(左)。初めて実物を見た亀の手(右)。



会場に到着すると城壁のような段畑に圧倒されます(上)。段畑に上がる道。急峻さと暑さに即断念(左)。大洲河川国道事務所の谷野さんが現場で作成して下さった四国と東北交流の灯籠(右)。



遊子小学校の児童たちが港を背景に置かれたメッセージ付きの竹灯籠を点火していきます。同時に大人は段畑にあがって点火していきます。